

6-7 建設工事分野(正興電気建設株)

これまでのあゆみ

正興電気建設株は正興商会の送電、配電、内外線工事の工事部として1924(大正13)年に発足し、1944(昭和19)年九州電気工事株(現・株九電工)の設立とともに同社に移管されました。1950(昭和25)年に正興商会の水力、火力、変電工事を行う工事部として再度発足しましたが、1954(昭和29)年九州火力建設株(現・西日本プラント工業株)の設立とともにまたも移管されています。そして菟田火力発電所ならびに大村火力発電所建設I期工事終了後、正興商会の工事部として再々度発足し、水力発電所および変電所工事を再開しました。

1960(昭和35)年、正興商会は製造、商事、工事を分割し、工事部は正興電気建設株として独立するに至りました。

正興電気建設発足後は、九州電力諸塚水力発電所新設工事を皮切りに、水力発電所の新設・改造・解体・修繕をメインに、変電所の新設工事や増強工事に携わり業績を伸ばしてきました。また、大島電力株、日立工事株(現・株日立プラントコンストラクション)、東芝工事株(現・東芝プラントシステム株)、西部瓦斯株、九州火力建設株など、多くのお客様からも受注し、九州のみならず、遠くは四国、関西、北陸まで手を広げた時期もありました。

大型水力発電所では、昭和30年代に宮崎の耳川水系の大型水力発電所新設工事を多く請け負い、中でも九州で最初の揚水発電所(タンデム式)である諸塚発電所建設の経験は当社に大きな技術的成長をもたらしました。またその後も、一ツ瀬発電所建設(1963年)や大平揚水発電所主機据付(1973年)、天山揚水発電所主機据付(1984年)、小丸川揚水発電所主機据付工事(2003年)といった高度な技術を要する大型工事を手がけることとなりました。

一般水力では、昭和40年代に九州電力が開発する筑後川水系の下笠発電所、柳又発電所の新設工事や山須原発電所、古屋敷発電所など多くの新設・更新・増強工事を主に実施してきました。

平成に入ってから新設工事が減少するなか、中小水力発電所の総合更新工事(スクラップアンドビルド)や解体・修繕工事(オーバーホール)も実施。技術力の維持・強化に努めました。

変電では、昭和30年代は電力供給を主とした配電用変電所の新設・増強工事を主に担当してきました。その後、電力需要の伸びにともない電源開発が盛んになると、超高圧の系統用変電所の工事も施工するようになり、1974(昭和49)年に初めて20万V工事、新門司開閉所新設工事を行いました。さらに昭和50年代には高度な技術力と施工力を必要とされる50万Vの中央



揚水発電所解体修繕工事の発電機分解作業



揚水発電所建設工事に対する感謝状



一般水力発電所解体修繕工事の発電機分解作業



一般水力発電所解体修繕工事の水車据付作業



500kV変電所建設工事竣工



66kV変電所屋外機器設置工事



66kV全屋内変電所遮断器設置工事



変電所配電盤試験

変電所、新熊本変電所の工事を実施するまでになりました。

その後、電力需要の伸びや基幹系統の拡大により、2001(平成13)年には50万V中九州変電所新設など大型変電工事が増加。当社の受注も変電工事の割合が次第に増えてきました。

このような中、2011(平成23)年3月の東日本大震災の影響により電力会社の工事が大きく減少。受注先の開拓に取り組みましたが、会社の収支状況が改善せず、2016(平成28)年に正興電機製作所の100%子会社となり現在に至ります。

東日本大震災後は再生可能エネルギー開発が活発化したことで、太陽光発電の大量導入にともなう系統変電所や配電用変電所の変圧器・開閉器の増設・取り替え工事、水力ではFITによる小水力発電所更新工事が増加。併せて揚水発電所の解体修繕工事と変電所の高経年機器取り替え工事も継続して受注していることで、工事量も漸増で推移し経営改善がなされています。

将来に向けて

当社を取り巻く環境は今後も大きく変化していくと考えられます。しかし、いかなる変化があっても、目指すところは、「水力発電設備や変電設備の建設・保全工事を通じて、お客様の満足と電力の安定供給による環境にやさしい社会の発展に貢献すること」。この経営理念を持続的に全うするための努力を続けていきます。

水力発電設備は二酸化炭素排出量がゼロであるとともに、風力・太陽光発電とは異なり、電力系統を安定に運用するために欠かせない設備です。特に電力の貯蔵と発電ができる揚水発電所は、太陽光などの不安定電源を大量に連系させるために欠かせません。当社はこの揚水発電所を解体・修繕(OH)できる技術をもつ九州でも数少ない会社であり、この技術を将来に向けて維持していくことが一つの使命です。このような特殊な技術を身につけるためには10年単位での経験が必要であるため、人材の確保・育成について長期計画を立てて取り組んでいきます。

また、変電設備は電力をお客様に届ける重要な設備であり、やはり高度な保全や施工技術を身に付けた人材の育成が何よりも重要です。教育プログラムを適時アレンジしながら技術を磨いていきます。

当社の生命線は社員が培ってきた施工技術力にはかなりません。正興グループの社是である「最良の製品・サービスを以て社会に貢献す」の精神に従い、技術力を維持・向上させていくことで正興グループの一翼を担っていきます。